

園 評 価

大垣市立ゆりかごこども園

【園の教育目標】 心豊かな たくましい子
げんきな子 かんがえる子 やさしい子

【令和6年度の園評価より】
・子どもが主体的に遊び出してくる教材や、対話が生まれる工夫など、魅力ある環境や援助方法について研究を進める。
・子どもの遊びや生活が、より計画的で、連続性のあるものになるよう、話し合いを行い、立案につなげる。
・長時間の避難方法やさまざまな状況下での防災時の体制について、更に対策を話し、園児の安全確保を図る。
・園の様子や保育の意図について、関心を持っていただけるよう、よりわかりやすい発信に努め、家庭と園との協働的な子育てを進める。

4段階評価 ○保育者 ☆関係者 ●課題

観 点	短期目標	自己評価	保護者評価	評価及び意見の概要
保 育 ・ 幼 児 教 育 の 充 実	健康な体づくり 体を動かすことを喜び、子ども自ら生き生きと遊ぶ	3.5	3.9	○朝一番の戸外遊びが習慣になり、朝の身支度を早く終わらせ園庭に飛び出していき子が増えた。2.3歳児も「外に行きたい」と要求するようになった。 ○保育者は、子どもの運動能力の基礎となる「36の基本動作」を念頭に置きながら、年齢発達に応じた多様な動きのある遊びを計画した。週案に具体的に記入することで、実践と振り返りがしやすかった。 ●夏季の暑さが遊びに影響した。夏の遊び始めが遅れたため、長期の指導計画を見直すことよい。 ●保育者一人一人が、子どもの年齢発達に応じた運動遊びができるよう指導力を高めたい。 ☆遊びを通して子どもの体、運動機能が育てられている。このような環境は親として嬉しい。 ☆発表会の遊びの中に「36の基本的な動き」が入っており、日頃から取り組んでいくことがわかり、行事の中にもうまく構成し、取り入れられていた。 ☆他園に通う保護者の方の話からも、ゆりかごこども園はたくさん体を動かす遊びや散歩が行われていると感じる。雨天時には室内での運動遊びも行われており、楽しく安全な保育が有難い。
	社会的発達 思いを言葉（しくさ）で表現しながら、多様な人と関わり、様々な感情体験を通して相手の思いに気付いていく	3.2	3.8	○保育者は、給食時に各テーブルを回るなど、全ての子どもとの1対1の会話を大切にし、言葉で伝え合う喜びを味わえるようにした。 ○毎日の全園児による園庭遊びや、学年交流、きょうだいクラスの継続的な遊び・生活の場での交流を通して、子どもがクラスを越えた友達との交流を喜んだ。名前を呼んで関わったり、憧れや思いやりの気持ちから自ら動き出す姿が増えた。 ●子ども同士のいざこざも学びの機会と捉え、先回りしすぎた介入に留意したが、ケガの回避のため介入を先走ることもあった。 ●自分の思いを話したり、相手の話に耳を傾けたりする力についてはついてきているが、言葉の理解力や表現力を育て、自分の気持ちに折り合いをつけながら人と関わる力を育むことを継続課題としたい。 ☆異年齢交流が多く、とても良いと思う。参観時には、子ども同士が自己主張をしながら相手の気持ちに気付くような場面があった。けんかをして仲直りをすることは子どもにとって大事な経験であり、そうして生まれてくる仲間とのつながりが自分たちでやり抜く力にもなっていくのだからと感じる。 ☆家ではなかなか教えられない社会性や友達との関わり方を身に付けられており、嬉しく思っている。担任以外の先生からの声かけもあり、愛情を受けて人との関わりが広がられていると感じる。
	精神的発達 身近なものに関わり、興味関心を広げながら、やりたい遊びを繰り返し楽しむ	3.4	3.9	○毎月の園内研で週案研修を行い、より実践に活かせる作成の方法を学んだ。 ○遊びのねらいが達成できたかを、子どもの姿や言葉から振り返った。玩具の種類や量、設定方法など具体的な話し合いをし、次の環境づくりにつなげた。 ●環境の再構成について話し合っても、翌日に活かせていないことがある。子どもの遊びの連続性を保障するために日々の環境の見直しを行っていききたい。 ●各保育者が、発達の見通しや活動の予測に基づいて、計画的で具体的な週案作成力を向上させ、連続性を大切にしながら、子どもの実態に応じた柔軟な保育が展開できるようにする。 ●子どもたちの興味関心や経験を広げていけるよう、「思わず手に取りたくなる」「もっとやってみたくなる」魅力的な環境づくりが行えるよう、教材研究を行いたい。 ☆個人差が大きい乳幼児期に、大切なことをとても丁寧に活動として仕組まれており、有難い。 ☆発表会の劇遊びの中には、保育者の意図を入れつつ、子どもたちの思いも大切に取入れられていた。日頃から、子どもが興味関心を高められるような保育を保障されていることが感じ取れた。
子 育 て 支 援 の 充 実	保護者・地域との連携 園と家庭相互における子どもへの願いや生活経験を共有しながら、協働的な子育てを行う	3.9	3.8	○行事等は、その日の降園時まで写真日よりしてキッズビュー配信した。送迎時に子どもを交えて保護者との会話が膨らんだ。 ○学年だよりに園のその時々に行っている遊び（体操、歌等）や生活（手洗い、うがい、着脱、食具等）を掲載したことで、家庭でも取り組んでいただくことができ、子どもの育ちにつながった。 ●ドキュメンテーションだけでは、目に見えない子どもの心の動きや子どもがどんな経験をして発達しているのかな等を保育者が読み取って、その過程を見守り、どのように支えているか、また、育てている力、育とうとしている力等を保護者にわかりやすく伝えるよう作成することが難しかった。作成力を磨いていきたい。 ☆降園時に、1日の様子や成長を具体的に伝えてもらえ、有難い。延長利用の場合でも、質問や疑問に丁寧な説明があり、感謝している。 ☆親の目線では気付かないような一面や成長を日々教えていただけることにも感謝している。 ☆キッズビュー（アプリ）配信も多く、園の様子がよくわかる。
災 害 保 育 ・ 基 礎 的 な 教 育 体 制 の 充 実	危機管理 大震災時の多様な状況に対応できるよう改善を図り、体制を整備する	4.0	3.8	○大震災については、発災時、混乱期、安定期（短期・長期）に分け、想定されることとその対応、事前の対策について全職員で話し合い一覧表にまとめたことで、各保育者が震災時について、より具体的なイメージをもつことができた。 ○様々な想定のもとで、より実際の災害時に近い訓練を行った。これまでにない改善点や課題が見え、都度の反省を次の訓練に活かす実践することができた。 ●引渡しは紙面上の訓練だけでなく、実際に行えるとよい。

【次年度に向けて】

- ・保育実践力を高めるために、各保育者の目標を明確にして自己研鑽に励むとともに、園内で遊びや教材の研修を充実させる。
- ・人と関わり、豊かな心情体験ができるよう保育を仕組むとともに、自他の気持ちや関わり方に気付けるような環境や援助を工夫したい。
- ・環境の再構成は、大がかりなことだけでなくよいという意識で、今日の子どもの姿から明日の保育を考え、子どもも保育者も、明日の保育が楽しみになる環境の見直しを行う。
- ・危機管理の大震災時の体制整備については、課題としていたところまで取り組むことができた。現状より新たな観点として「多様なニーズに応じた支援」を取り入れ、クラスの支援、個の支援を充実させ、包摂性の高い保育をめざす。